歯肉に発生した脂肪腫の1例

久野 吉雄・内山 敏子・庄内 晃二

Lipoma of the gingiva : Report of a case

Yoshio HISANO・Toshiko UCHIYAMA・Koji SHONAI

ま え が き

口腔内には、線維腫、骨腫、骨線維腫、乳頭腫、脂肪腫など種々な良性非歯系腫瘍の発生をみるが、このうち脂肪腫は、肩、背部などの皮下に好発し、口腔内に発生することは比較的少ないとされている。

このたび私共は、31相当唇側歯肉部に発生した脂肪腫の一例を経験したので報告する。

症 例

患者： 45才 男性

初診：昭和47年11月 日

主訴：31相当唇側歯肉部付近の無痛性膨隆

家族歴：特記すべき事項はない。

既往歴：12才の頃、乾性助膜炎に罹患した他、特記すべき事項はない。

現病歴：昭和23年頃、31を支台とした架工義歯を装着したが、その折には、その部の膨隆は自覚していなかった。その後7～8年経過後、31相当歯肉部にわずかな膨隆を自覚するようになったが、疼痛などないため放置していたところ、徐々に、その膨隆は増大の傾向を示した。最近になり、歯周疾患治療の目的で、某歯科を受診したところ、その膨隆を指摘され、本院へ紹介され来院したものである。

現症：体格、栄養は中等度で、顔貌は右側オトガイ部にわずかな膨隆が認められる。口腔内は、31相当唇側歯肉部より歯肉唇移行部に広い基底を有する境界比較的明瞭な、大きさはほぼ指示頭大の半球形の膨隆が認められる。その表面は、周囲粘膜より赤味をおびており、数状の毛細血管の怒張が認められる。その部を触診すると、弾力性軟であり、非可動性で圧痛はなく周囲への浸潤硬結は触知できない。3-1には、架工義歯が装着されており、7～7には歯周疾患が認められる。また顎下およびオト

写真1 口腔内所見

ガイ淋巴節には異常は認められない(写真1)。

X線所見：歯周疾患による歯槽頂部の骨吸収像を認める他、膨隆の存在する付近の顎骨には、特別な所見は認められない。

その他、血中脂肪酸、コレステロールなどについても検索したが特別な所見はなく、また尿にも特別な所見は認められない。

処置ならびに経過：以上の所見より脂肪腫を疑い、摘出手術を施行した。摘出手術は通法により浸潤麻酔の許

写真2 摘出物所見

日本歯科大学口腔外科学教室第一講座(主任：宇賀春雄教授)
First Department of Oral Surgery, Nippon Dental College
(Chief: Prof. Haruo Uga)

受付 昭和48年10月29日

表 1

年 代	報 告 者	年令性別	診 断	発 生 部 位
1942	Jacobsら ¹⁴⁾	63才 男	Fibrosing Lipoma	右側口腔底
1948	小 畑 ¹⁹⁾	36才 女	脂 肪 腫	[6]相当頬側歯肉
1949	Quinn ²⁶⁾	41才 男	Lipoma	下顎口腔前庭
1954	Bruceら ³⁾	43才 男	Fibrolipoma	左側頬部
1954	Bruceら ³⁾	50才 男	Fibrolipoma	右側歯肉頬移行部
1954	Bruceら ³⁾	44才 男	Pure Lipoma	右側下顎頬側歯肉
1955	田島ら ³⁰⁾	50才 女	脂 肪 腫	左側下顎齦頬移行部
1956	Dixonら ⁵⁾	58才 男	Lipoma	左側口角部
1956	Turner ³³⁾	74才 男	Lipoma	下 口 唇
1956	小 淵 ²⁰⁾	60才 男	脂 肪 腫	[32] 根尖相当口腔底
1957	飯 尾 ¹³⁾	7才 男	非定型的脂肪腫	喉 頭
1959	Blakeら ²⁾	50才 男	Fibrolipoma	口 腔 底
1959	Marfino ¹⁷⁾	35才 男	Fibrolipoma	free Gingiva
1959	Simpson ²⁸⁾	69才 男	Lipoma	下 口 唇
1959	Simpson ²⁸⁾	41才 男	Lipoma	口 角
1959	Simpson ²⁸⁾	32才 女	Lipoma	口 角
1959	Simpson ²⁸⁾	74才 男	Lipoma	口 角
1959	Simpson ²⁸⁾	48才 女	Lipoma	口 腔 底
1959	Simpson ²⁸⁾	75才 女	Lipoma	口 角
1959	Simpson ²⁸⁾	56才 女	Lipoma	下 口 唇
1960	Bergenholtzら ¹⁾	49才 男	Lipoma	[1]~[5]部の前庭
1960	市 川 ¹²⁾	64才 男	脂 肪 腫	舌下部左側第1大臼歯部より右側犬歯部
1961	Orlean ²⁵⁾	65才 男	Lipoma	下 口 唇
1961	Godbyら ⁷⁾	54才 男	Lipoma	口 腔 底
1961	田 中 ³²⁾	60才 女	線維性脂肪腫	左頬粘膜頬唾液乳頭の前下方
1962	林 ら ⁸⁾	79才 男	脂 肪 腫	口 腔 底
1963	大井ら ²³⁾	17才 女	脂 肪 腫	口腔底部より右側顎下部
1963	小 川 ²¹⁾	67才 男	純脂肪腫	舌左半部
1963	岡本ら ²⁴⁾	65才 女	線維性脂肪腫	左側舌下部
1963	加藤ら ¹⁵⁾	2才 女	脂 肪 腫	口 蓋 垂
1964	Rose ²⁷⁾	50才 男	Lipoma	[3]部歯肉頬移行部
1964	間仁田ら ¹⁶⁾	64才 女	線維性脂肪腫	[76]相当頬粘膜より齦頬移行部
1964	間仁田ら ¹⁶⁾	3才 女	線維性脂肪腫	左側頬粘膜で乳臼歯部に相当する頬縫線
1964	間仁田ら ¹⁶⁾	15才 男	線維性脂肪腫	右側の頬縫線を中心に前方は口角部後方は第2大臼歯
1964	細 川 ¹⁰⁾	75才 男	脂 肪 腫	左軟口蓋前線
1965	Wehrleら ³⁴⁾	82才 男	Lipoma	舌
1965	Wehrleら ³⁴⁾	71才 男	Lipoma	右側口角より頬粘膜
1965	Wehrleら ³⁴⁾	67才 男	Lipoma	舌 下 部
1965	Wehrleら ³⁴⁾	64才 男	Lipoma	舌 下 部
1965	高 橋 ³¹⁾	40才 女	過誤腫性脂肪腫	舌背後部のほぼ正中
1965	高 橋 ³¹⁾	75才 男	純脂肪腫	舌の両側辺縁部
1966	Hughes ¹¹⁾	69才 男	Lipoma	右小臼歯相当歯肉頬移行部より頬粘膜
1967	Choukas ⁴⁾	74才 女	Lipoma	頬 粘 膜
1967	山田ら ³⁵⁾	56才 男	脂 肪 腫	右側臼歯部に相当する頬粘膜
1967	山田ら ³⁵⁾	37才 男	脂 肪 腫	[6]部に相当する頬粘膜
1968	萩原ら ²²⁾	58才 女	純脂肪腫	右側顎下唾液腺と胸鎖乳突筋の間

に、膨隆部を被覆する粘膜に切開を加え、鈍的にこれを剥離した。この際、歯肉部では、腫瘍下部に存在する骨膜は健全であり、周囲との癒着もなく、一塊として容易に摘出することができた。

摘出後の経過は良好で、6 カ月を経過した現在、再発の傾向は認められない。

摘出物の肉眼的所見：摘出物は指示頭大で、重量は 1.5g であり、その表面は一層の薄い被膜で被われ、滑沢で黄赤色を呈し、弾力性軟であった。その断面は充実性無構造で淡黄色を呈し、10%ホルマリン中に投入した所浮上した (写真 2)。

病理組織学的所見：組織の大部分は、成熟した脂肪組織の増殖からなり、それらの間には、少量の緻密な結合組織線維と毛細血管があり、脂肪組織との混合は認められず、規則正しく分葉状に分かたれている。また悪性像は認められない (写真 3)。

写真 3 (上、弱拡大)
病理所見 (下、強拡大)

考按ならびにむすび

口腔領域は、身体の中でも特異な場所であり、種々な腫瘍の発生をみるが、口腔内に発生する脂肪腫は比較的多いものであり、Geschickter⁶⁾ は、脂肪腫 460 例中、口腔領域にあらわれたものは 3 例であったと報告、

Wehrle ら³⁴⁾は、口腔内腫瘍中脂肪腫の発生は 2.22%、朱雀ら²⁹⁾は口腔領域の良性腫瘍 111 例中、脂肪腫は 1 例にすぎなかったと述べている。本学病理学教室において 1968 年より 1972 年の 5 年間に検索した良性非上皮性腫瘍 108 例についてみると、脂肪腫は 2 例であり、口腔内に発生する脂肪腫の少ないことがわかる。しかし、間仁田ら¹⁶⁾は、1 年間に続けて 3 例も経験したことからよく注意して観察し、病理組織学的検討も加えるならば、案外見逃しているものもあると述べている。

発生部位について観察すると我々の集め得た文献からでは、正常な脂肪組織の存在する頬部、舌、口腔底、口唇にその発生が多く、我々の経験した本例は、3 相当唇側歯肉部に発生したものであり、歯肉部に発生した脂肪腫は、小畑¹⁹⁾、Marfino¹⁷⁾、Bruce ら³⁾ の各 1 例のみのようであった。

脂肪腫の発生を性別よりみると Geschickter⁶⁾ は、女性が 3 : 2 の割で多いと述べ、Hennigsen⁹⁾ は、逆に男性 61% に対し、女性 39% で男性に多いとしており、私共の集め得た本邦文献においては性差はみられなかったが、外国文献においては男性に多いようであった (表 1)。

本腫瘍の組織発生に関しては、組織異所発生説、正常組織の過形成説などが考えられており、その成因としては先天的内因、内分泌の失調、神経との関係、結核症との関係、持続的刺激などがあげられている。我々の経験した本例も、その組織発生に関しては不明であるが、歯周疾患が存在したことから考えると、その刺激も何らかの成因になったように思われる。

この度我々は 45 才男性の 3 相当唇側歯肉部に発生した指示頭大の稀有な脂肪腫の一例を経験したので報告した。

本論文の要旨は昭和 48 年 6 月日本口腔科学会総会において発表した。

文 献

- 1) Bergholtz, A. & Thilander, H. : Lipoma of the oral cavity. OS OM & OP 13 : 767 1960.
- 2) Blake, H. & Blake, F.S. : Lipoma in the floor of the mouth. OS OM & OP 12 : 1436 1959.
- 3) Bruce, K.W. & Royer, R.Q. : Lipoma of the oral cavity. OS OM & OP 7 : 930 1954.
- 4) Choukas, N.C. : Lipoma of buccal wall. J Oral Surg 25 : 371 1967.
- 5) Dixon, W.R. & Ziskind, J. : Lipoma of oral cavity. OS OM & OP 9 : 575 1956.
- 6) Geschickter, C.F. : Lipoid tumors. Am J Cancer 21 : 617 1934.
- 7) Godby, A.F., Drez, P.B. & Field, J.L. : Sublingual lipoma with ectopic bone formation. OS OM & OP 14 : 625 1961.
- 8) 林 四郎, 他 : 口腔底脂肪腫の一例. 日本耳鼻咽喉科学会々報 65 : 245 1962.
- 9) Hennigsen 1) より引用
- 10) 細川雅敏 : 口蓋脂肪腫の一症例. 日本耳鼻咽喉科学会々

- 報 67 : 1401 1964.
- 11) Hughes, C.L. : Intraoral lipoma with osseous metaplasia. OS OM & OP 21 : 576 1966.
 - 12) 市川辰己 : 口底脂肪腫の一例について. 口腔外科学会雑誌 6 : 534 1960.
 - 13) 飯尾孝子 : 喉頭に発生した非定型的脂肪腫の一例. 耳鼻咽喉科臨床 50 : 869 1957.
 - 14) Jacobs, M.H. & Barron, J.B. . Fibrosing lipoma of submaxillary gland. Am J Orth & Oral Surg 28 : 44 1942.
 - 15) 加藤純彦, 他 : 口蓋脂肪腫の一例. 耳鼻咽喉科臨床 56 : 375 1963.
 - 16) 間仁田恭一, 他 : 口腔の線維性脂肪腫について. 口腔外科学会雑誌 10 : 231 1964.
 - 17) Marino, N.R. : Developing fibrolipoma of the free gingiva. OS OM & OP 12 : 489 1956.
 - 18) 森 茂樹 : 病理学総論, 金原出版, 東京, 1960, p. 262.
 - 19) 小畑芳美 : 歯肉粘膜下に発生した脂肪腫の一例について. 歯科学雑誌 5 : 95 1948.
 - 20) 小淵貞夫 : 口腔底に発生した稀有なる脂肪腫の一例. 長崎医学会雑誌 31 : 125 1956.
 - 21) 小川克二 : 舌脂肪腫症例. 日本耳鼻咽喉科学会々報 66 : 1580 1963.
 - 22) 荻原 力, 他 : 舌下部及び顎下部にみた脂肪腫と皮様嚢胞. 日本口腔外科学会雑誌 14 : 145 1968.
 - 23) 大井一正, 他 : 口腔底に発生した巨大な lipoma の一例. 歯科学報 63 : 4 1963.
 - 24) 岡本 治, 他 : 臨床診断において皮様嚢胞と誤診した脂肪腫の一例. 歯科学報 63 : 794 1963.
 - 25) Orlean, S.L. : Lipoma, Benign tumor of soft oral structure. OS OM & OP 14 : 1004 1961.
 - 26) Quinn, J. H. : Lipoma of the oral labial vestibule. OS OM & OP 2 : 723 1949.
 - 27) Rose, H.P. : Lipomain the buccal space. JADA 69 : 130 1964.
 - 28) Simpson, H.E. : Lipoma of oral cavity. OS OM & OP 12 : 349 1959.
 - 29) 朱雀直道, 他 : 最近の我教室に於ける口腔領域の良性腫瘍に関する臨床統計的観察. 口腔外科学会雑誌 9 : 297 1963.
 - 30) 田島時博, 他 : 口腔内脂肪腫の症例について. 口腔外科学会雑誌 4 : 376 1955.
 - 31) 高橋忠彦 : 舌脂肪腫の2例. 日本耳鼻咽喉科学会々報 68 : 1063 1965.
 - 32) 田中 順 : 頬粘膜に生じた線維性脂肪腫の一例. 口腔病学会雑誌 28 : 251 1961.
 - 33) Turner, H. : Lipoma of the Lip. OSOM & OP 9 : 376 1956.
 - 34) Wehrle, D.P., Emmings, F.G. & Koepf, S.W. : Lipoma of the oral cavity. OS OM & OP 20 : 139 1965.
 - 35) 山田孝良, 他 : 脂肪腫の2例について. 日本口腔外科学会雑誌 13 : 348 1967.